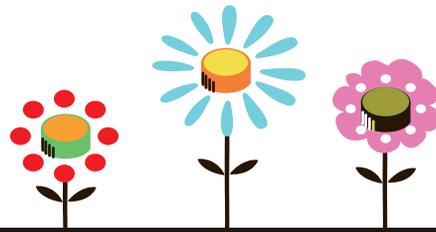


キャップを届けてくれた皆さんへ



いつも、エコキャップ運動に協力してくれて、ありがとうございます。
この運動は、皆さんと同じように学校に通っている、ある一人の女子高生の、
「ペットボトルはリサイクルされるのに、何故キャップはゴミになっちゃうの？」
という素朴な質問からスタートし、瞬く間に大きな運動となりました。

そして、毎日届く、ちいさなキャップは、
1人1人がリサイクルについて考える種になりました。
「このキャップ、ゴミとして燃やさなければ、CO2を増やさずにすむよね。」
「集めたキャップをお金にしようよ。そして、困っている人のために使ったらどうかね。」
エコキャップから生まれたリサイクルの種は、
どんどん蕾がふくらみ、花を咲かせていきました。

集められたキャップが素材として生まれ変わるために、
キャップを洗って、シールをはがして、細かくするお仕事を
障がいをお持ちの方に行ってもらった場所「エコステーション」を開設しました。
すると、障がいのお持ちの方が、エコキャップでお仕事の機会を得る。
そんな、やさしい花が咲きました。

国が貧しいとか、紛争に巻き込まれているということで、
病気やケガの治療をしてもらえない子供、
予防接種さえすれば病気に罹らず命を落とさないですむ子供、
世界にはそんな助けを求めている子供がたくさんいます。
そんな子供たちを助けられるよう、ワクチンを海外に送る団体に、
キャップを売ったお金を、寄付しました。
すると、かけがいのない花が咲きました。

どの花も尊く、美しくそして同じ大切な存在です。
私達は、これからも皆さんからお預かりしたエコキャップで、
大切な花を咲かせていきます。

こんなお話を、はやく皆さんにすればよかった・・・
リサイクルの種で咲いた、大切な花の話。

ポリオワクチンが、世界の子供を救う大切な花なら、
障がいを持つ方が働く場所をつくることも、大切な花だということ。

もっと早くに、もっと誠実に・・・伝えられなくてごめんなさい・・・
これからは、もっとリサイクルの種のお話をしていきますね。